

## 【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2026年3月20日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	国際日本学部国際日本学科
留学(渡航)した時の学年	2年生
帰国年月日	2026年3月19日
明治大学卒業予定年月	2028年3月
留学先大学について	
留学先国	イタリア
留学先大学	ヴェネツィア大学(日本語名) Universita Ca' Foscari Venezia (現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	イタリア語 / 英語
留学期間	2025年9月～2026年3月
留学先大学で在籍した学年	2年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称:  <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4月上旬～7月下旬 2 学期: 9月中旬～2月上旬	1 学期: 9月中旬～2月下旬 2 学期: 3 学期: 4 学期:
学生数	約 23000 人
創立年	1868 年

留学費用			
留学費用項目	A 現地通貨 (ユーロ ) (1 現地通貨 = 183 円)	B 日本円	備考
授業料		円	
宿舍費	€3220	円	
食費	€180	円	
図書費	€0	円	
学用品費	€60	円	
携帯・インターネット費		円	
現地交通費	€125 + $\alpha$	円	水上バス定期券( <input type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車 )
教養娯楽費	約€500	円	通っていたジム費用合計 + $\alpha$
旅費(留学中)	€690	円	
被服費		円	
医療費	€40(健康診断)	円	
保険費		66020 円	形態: 海外旅行保険
渡航旅費		90000 円	
ビザ申請費		円	
雑費		円	
その他	€50(薬)	円	
その他		円	
合計 ※現地通貨 および 円	€4825 (=885505 円)	90000 円	
総計(A+B) ※円		1041525 円	

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。

## 渡航関連

### 渡航経路

往路 出発地：成田国際空港 目的地：ミラノマルペンサ空港 経由地：上海

復路 出発地：ミラノマルペンサ空港 目的地：成田国際空港 経由地：

### 渡航費用

① 往復チケットを購入した場合

航空会社：

料金：

② 片道ずつチケットを購入した場合

往路 航空会社：Air China 料金：

復路 航空会社：Eva air 料金：

∴合計：

### 航空券購入方法

旅行代理店(店名： )

インターネット(サイト名： Trip.com)

その他( )

## 滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例：アパート、大学の宿舎等)

学生寮(寮の名前： Collegio A.M.D.G)  アパート  ホームステイ

2) 部屋の形態

個室  相部屋(同居人数 4 人)

3) 共有部分

バス  トイレ  キッチン( 自炊可  自炊不可)

4) 住居を探した方法：

インターネット

5) 感想：(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

滞在先は一長一短でした。生活空間の共有が多く、留学生友達を積極的に作りたいなら非常におすすめです。ただ、設備が壊れていたり壁が薄いためプライバシーはほぼ無く、かなり不便な上になぜか皿を洗わない人が多く、キッチンでは毎晩大変なことになっていました。一応掃除のシフトはあるのですが、かなり不衛生だったと思います。アクセスも大学と駅両方から遠く、橋を渡って半島から来る方が便利にさえ思えました。なので、お世辞にも快適とは言えない場所でした。そのため、人間関係再重視の場合は私の滞在先をおすすめしますが、ある程度 QOL を高く保ちたい方には不便な要素が多すぎておすすめできません。

## 現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: 現地の友達に話を聞き、薬局で薬を処方してもらうことを勧められた)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: 留学生担当事務室(Incoming Mobility))

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

現地の友達の話をよく聞き、基本的に貴重品は肌身離さず持って置き、ものと周囲の人の行動に常に気を配る。また、危険な地域にはなるべく近寄らない。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮のインターネットは可もなく不可もなくだったが、場所によっては使い物にならないため、その際は携帯会社のデータを使った。イタリアでは、通話が多いためか、大容量プランが比較的安い。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地に口座を開設、カードを新しく作り、日本の親から送金してもらった。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えて下さい。

よく効く風邪薬、自分に合った枕、変換プラグ、

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計		本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
ETCS6 単位	<input type="checkbox"/> 単位	<input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限		
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他( ) <input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった: 一応履修可能だが、特定の講義の知識を要するものがある		
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。		
履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Italian language Practice B1 Pre-Intermediate		イタリア語 B1
科目設置学部・研究科	SIE	
履修期間	Semester 1 (9月-2月)	
単位数	ETS12 単位	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	少人数対面形式(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1週間に3時間が2回と90分が2回	
担当教授	Elena Ballarin, Francesca Pangallo	
授業内容	B1レベルのイタリア語の学習。授業は2部に構成されており、1時間30分の論理的な言語学が週2コマ、3時間の実践的な学習が2コマ	
試験・課題等	言語学の方は授業毎に振り返りの課題が出る。また、試験は言語学の方で、筆記とプレゼン形式、演習の方で筆記が出る。難易度はきちんと勉強していれば簡単に感じる程度。	
感想を自由記入	少人数制かつ、事前の Web テストで自分のレベルを大体把握したうえで臨めたため、特に大苦戦することはなかった。どちらの教授もとても気さくで優しく、どんな初歩的なことでもためらわずに質問できた。また生徒も全員真面目で学習意欲の高い空間だった。言語学は特にヨーロッパ系の言語のベースを持っていないとかなり難しく感じた。また、合計で週9時間、連続した3時間が時間割に挿入されるため、SIEでない通常講義とのスケジュール的な相性が悪く、単位的にもコスパが悪い。本当にイタリア語に興味がある人以外は取らなくても問題はない。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Contemporary Politics in Italy	イタリア現代政治
科目設置学部・研究科	SIE
履修期間	Semester 1 (9月-2月)
単位数	ETCS6 単位
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が2回
担当教授	Giulio Fuggazotto
授業内容	戦後から現代までの政治を出来事、人物を学習する。
試験・課題等	課題は無し。試験は筆記で3択+記述2問勉強すれば特に難しくはない。
感想を自由記入	教授が講義を担当する初年度だったため、講義を進める方針があまり固まっておらず、授業スライドが見つらい、英語をかなり高度に理解しないと難しいなど問題はところどころ見られた。しかし教授がとても親切で、授業前にオフィスアワーを設け、質問にも必ず答えてくれる。内容が難しく、教授が投げかける質問もかなり漠然としていたため、英語圏の留学生しか積極的にこたえられていなかった印象がある。ただ、テストもそこまで難しいものではなく、やる気さえあればとても面白いと感じられるよい授業だった。

## 卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職   進学   未定   その他:

2) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。  
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)  
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。  
ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。  
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

## 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	出願
	10月～12月	選考・留学の可否決定
留学開始年	1月～3月	オリエンテーション
	4月～7月	航空券予約・履修登録(1)・滞在先確保・Web サイト登録
	8月～9月	授業開始・渡航(2)
	10月～12月	中間試験
留学/帰国年	1月～3月	中間試験・帰国
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

## 留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留學生生活全般等について、アドバイスを記入してください。

まず何よりも先にヴェネツィア大学を留学先として選んだ方で単位をなるべく取りたい方はどれだけ内容に興味が無くても「SIE 講義」を取ることを強くお勧めします。

そして、履修登録が 2 種類あることをお伝えしたいです。大きく分けて現地の学生も受けられる「通常講義」と留學生用の「SIE 講義」というものがあります。4 月に「ラーニングアグリーメント」という履修登録草案のようなものを提出しなくてはならないのですが、「通常講義」の方が早く講義ラインナップが出ます。しかしその段階には週何回あって何曜日の何時からあるといった時程の情報が出ていないため、草案の記入は本当に適当で大丈夫です。その後が重要です。少し時間を置いて 7 月に「SIE 講義」のラインナップが公開されるのですが、時程の情報は「通常講義」よりも先に出る上、「SIE 講義」は締め切りのあるフォームに履修を希望する授業を記入し提出することで登録できます。つまり、4 月に提出した「SIE 講義」無しの草案をほぼ書き換えて「SIE 講義」を「通常講義」よりも先に決定することになりますし、そうすることを繰り返しお勧めします。

なぜなら「SIE 講義」の方が国ごとの高校までのカリキュラムの違いを想定しているため、通常のそれに比べて簡単に、単位も取得しやすい上、通常講義と違ってすべての「SIE 講義」が留学専門部署によって統括されているため、履修被りが一切起こりえないことで履修面のストレスを大きく減らすことができるからです。一応通常授業も興味があれば履修してもよいですが、日本の高校までの教育とヨーロッパの大学教育の相性が基本よくないと感じたため、「SIE 講義」のついでに取るくらいが良いと思います。

私は第一志望として、内地でイタリアの雰囲気を感じ取れそうなボローニャ大学を選んだのですが、結果第二志望のヴェネツィア大学へ留学する運びになりました。ヴェネチア大学は昔父が通っており、親戚も近くに住んでいるため、環境的にはかなりのアドバンテージがありました。イタリアへの留学目的は、イタリア語の上達と、自分の人生の大まかな方針を定めることです。日本イタリア両方のルーツを持っている自分が、今後の人生をどこで歩んでいきたいか決めるにあたって重要な要素になると思い、留学するまでは 3 年ごとに最大 2 週間しか滞在することのなかったイタリアに少しの間住んでみようと思い立ったのがきっかけで、実際大学入学前から留学はすでに決めていました。

留學生生活ですが、個人の見解としては積極的に日本人以外の学生たちと関わらるべきだと思います。講義で学んだこともとても役に立ったのですが、一番は多くの外国人留學生と話し、密接に生活していくことで、自国の国際的な立ち位置がはっきり分かったり、自分が学生としてどれほどのレベルなのかということを感じることができたりします。そのため、留学後の感想として有名な「考え方や支店が大きく変わった」というのは決して間違いではないと思います。なので、何か特定の学びたい分野が無く、漠然と海外に行ってみようという興味さえあれば、十分それが留学をする理由になりますし、何かしらの得て帰国することができるのではないのでしょうか。

私は他の留學生よりもハードルが低い状態でしたがそれでも留学前、留学中かなりの頻度で苦労することがありました。大きく分けると 3 つ。1、講義関連 2、人間関係 3、体調不良です。一つ目は前述したとおり、日本の高校教育との相性や履修システムの特異性から、まず最初に躓いた点です。これはイタリア人の友達を作って相談するのが一番手っ取り早いです。また何度も言いますが Learning Agreement は 10 月頃まで後出し編集ができるため、SIE の授業で固めたうえで、通常授業は軽めにとることをおすすめします。二つ目は特に寮などで生活していると不可避な問題です。特に文化やそれ以前の価値観の違いなどによって、軋轢が生じることもありました。もし、気分を害された場合は、徹底的に戦った方がいいなと痛感しました。現に大喧嘩した同じ寮に住んでいるイタリア人とは今一番仲のいい友達になっています。なので嫌なことがあった時は遠慮やフェードアウトせず、しっかり意思表示するのが良いなと思いました。三つめは体調不良です。これに一番苦しめられました。寮のコンディションや観光客でごった返すヴェネツィアに住んでいるといつ風邪をもらうかわかりません。また、イタリアは風邪をひいたときには医者ではなく、薬局で薬剤師に相談して薬を買って急場しのぎをするのが一般的です。しかしそれらの薬の効き目を実感したことはないため、日本で処方された薬や、日本の風邪薬などを持っていくことを強くおすすめします。

イタリアは大学のレベルが高く、困ったらたくさん人が助けてくれる上に、食生活で困ることはほぼないため留学にかなり適している場所だといえます。すべてがバラ色の生活というわけではないですが、個人的には忘れられない貴重な経験ができ、本当に留学してよかったなと思いました。